

## 第10回きんめだい祭り！

7月18日(日)に恒例の『きんめだい祭り』が銚子マリーナにて開催されました。

今回は節目の第10回目ということで主催者(銚子市漁業協同組合・外川きんめだい祭り実行委員会)の意気込みも大きく、また、回を重ねるごとに知名度も上昇しているようで、来場者数は過去最高の2万2千人となりました。

名物のキンメダイ販売チケットのコーナーには、開場前から長蛇の列ができ、各種キンメダイ料理の販売や試食、ヒラメ稚魚の放流、ものまね歌謡ショーなど内容が盛りだくさんで、まさに大盛況でした。

中でも今回の目玉は、福島県にある水族館「アクアマリンふくしま」の協力により実現した**活きたキンメダイの展示**でした。来場者は、めったに目にすることのないキンメダイの泳ぐ姿や、活着している時にしか見ることのできない体の半分以上



大盛況の会場(右上は泳ぐキンメダイ)

が銀色に輝く魚体に驚き、また感心している様子でした。

この活きたキンメダイの展示により、銚子のキンメダイの活きの良さがアピールできたのではないかと思います。

## サトウガイの海上蓄養試験

海匠漁業協同組合青年部では主要漁獲物であるサトウガイの海上蓄養試験を開始しました。

これは、継続的な出荷体制を整えるために行うもので、価格の安定を目的としています。

同青年部では、これまでに価格の上昇を目的とした共同出荷を行ったり、ポスターやシールを作製し市場へのPR活動を行ってきました。

これまでに実施した陸上水槽での蓄養試験の結果をもとに今年度は生簀による海上蓄養試験を行い、蓄養中の生き残りや体成分の変化について調査します。



生簀の様子

## 小型底曳網漁業解禁

9月1日(水)に小型底曳網漁業が解禁となりました。また、解禁に先立ち、8月26日(木)に漕出式が行われました。



漕出式は好天に恵まれました

銚子市漁協所属の12隻が色とりどりの大漁旗をなびかせ、川口神社前にて操業の安全と豊漁を願いました。

## 漁業士会主催の視察研修

8月29日(日)に千葉県漁業士会銚子支部主催の視察研修を行いました。

当日はあいにくの雨天でしたが、69名の漁業関係者が参加しました(漁業士の参加者は10名)。

主な視察先は、千倉町にある**千葉県水産研究センター**で、当日は同センターの一般公開日でした。

同センターでは、千葉県漁業の特色、海洋環境、生態や資源の調査方法、水産加工品、アワビ特集などのパネル展示や、標本、漁具などの様々な展示物があり、参加者の皆さんはとて熱心に見入っていました(クイズラリーの答えを探すため?)。また、干物作りやロープワークの体験コーナーも好評でした。

また、途中で立ち寄った**潮風王国**では、南房総特産の海産物等の販売があり、色々と土産を買い込んだ参加者もいたようでした。



「クイズラリー」に夢中

末尾になりますが、会場案内や説明をしてくださった水産研究センター職員の皆様にお礼申し上げます。ありがとうございました。

## 「知事と語ろう！明日の漁業」について

9月3日(金)に銚子市市民センターにて、堂本暁子千葉県知事と銚子支部管内の漁業者による対話集会被開催されました。

堂本知事はあいさつの中で、「漁獲物の付加価値向上」や「後継者育成問題」について県として力を入れていきたいと話していました。

当日は約150名の漁業関係者が出席し、意見発表では、銚子支部から**田邊克己青年漁業士**が「キンメダイの付加価値向上と資源管理について」、**高尾美津江女性漁業士**が「漁家の経営と女性部活動」について、また、**小栗山喜一郎指導漁業士**が「まき網漁業再生の取り組み」について発表しました。

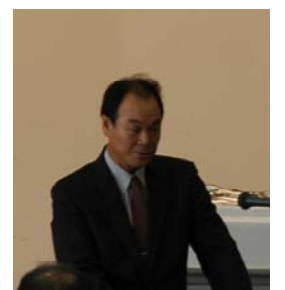
その他、自由な意見発表でも活発に意見が出され、堂本知事は一つずつついでいねいに対応し、県としてできる限り協力していきたいと応えていました。



田邊漁業士



高尾漁業士



小栗山漁業士